

探訪 チャレンジ企業 87

加賀丸いも生産販売と丸いも料理レシピの開発

株式会社MKU：能美市

今回は、能美市でチャレンジする企業「株式会社MKU」をご紹介します。紹介致します。

当社は平成十九年六月に創業し、建設重機等の運搬業務を行っており、安全・安心・確実をモットーに取り組んでいます。

当社の取引先は、建設・土木業が主で、繁忙期、閑散期がはっきりしているため、創業以来、閑散期の取り組みについて検討していました。



宮崎真佐美社長

閑散期対策の取り組み

当社が閑散期対策として注目したのは、旧根上町の特産品である「加賀丸いも」の植え付け作業です。

宮崎真佐美社長は、自身の出身地である能美市五間堂町が加賀丸いもの発祥の地で、以前から付加価値の高い農産物として魅力を感じていました。

そこで、平成二十年、加賀丸いもの生産を開始しました。地元の丸いも農家から指導を受け、運輸業の空時間を見付けては、畑での作業を行いました。

植え付け作業は閑散期ですが、収穫作業は繁忙期と重なります。自然は待ってくれませんので、友人知人の方々を

アルバイトとして雇い、切り抜けました。図らずも、当社の取り組みが新たな雇用を生み出したのです。

また、身近な素材のため、当たり前過ぎた丸いもに、地域資源として興味を持って頂くこともできました。

初年度の収穫後の販売は好評で、無事完売できましたが、運輸業とは違い、お金になるのは年に一回の収穫だけという農業の厳しさに気付き、より強固な販売網の確立が必要だと感じました。



空き時間を利用した作業風景

五間堂の丸芋の誕生

商工会へ相談したところ、まずは、自社製丸いもの定義付けから始めようということになりました。

宮崎社長のふるさとが五間

堂町であったことから、ふるさとを大切にしたいという思いを込めて、「五間堂の丸芋」と名付けました。



「五間堂の丸芋」のパッケージ

販売に当たっては、運輸業からの進出なので、消費者目線に立つことを常に意識しました。

商品案内パンフレットの作成では、なぜ「五間堂の丸芋」なのか、歴史調査を行い反映させ、保存の仕方、下処理の仕方、美味しい食べ方等、工夫しました。

販売時の容器についても既存のものとの差別化を図るため、個別包装にこだわり、高級感ある箱にしました。

ネット販売の研究も企業ドック制度等、専門家の支援を得ながら、同時に行い、順調に受注を伸ばしています。

丸いもの伝承に向けて

当初は、閑散期対策として始めた丸いもの生産販売ですが、地元の宝である丸いも文化を広めていきたいという使命感に変わりつつあります。

宮崎社長は、「栄養満点の丸いもを、もっと食べてもらいたい」と、丸いもレシピの開発に取り組み、フェイスブックやクックパッド等で紹介しています。更に、「今年は、旧根上町五間堂町に丸いもが伝わって百年目となります。微力ながら、故郷へ貢献できるように、更に精進していきます」と熱く語っていました。

当社のチャレンジは、これからも続いて行きます。

(お問い合わせ先)

株式会社MKU

〒920-0111

能美市大長野町三番地

TEL 〇七六一―二四一五五五

FAX 〇七六一―二四一五五六

http://manino.com

(取材・執筆：能美市商工会

主任経営指導員 岡本 光正)

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。